

DATA FILE



正方晶系

名前	Apophyllite (アポフィライト) / 魚眼石
化学組成	$\text{KCa}_4\text{Si}_8\text{O}_{20}(\text{F}, \text{OH}) \cdot \text{H}_2\text{O}$
色	無色、白色、緑色、黄色
光沢	ガラス光沢、真珠光沢
蛍光	なし
条痕	白色
劈開	一方向に完全
断口	不均等
硬度	4.5 ~ 5
比重	2.3 ~ 2.4

無色、白色、黄色、ピンク色、
緑色など、さまざまな色がある。



緑色の魚眼石。

ある方向から見ると、白く濁った輝きがあり、これが魚の目に似ているということから、欧米では「フィッシュアイストーン」という別名が古くから使用されていた。日本では、それが直訳され、魚眼石と名付けられた。

魚眼石の結晶は、主に四角錐状が多いが、サイコロのような立方体や薄板状もあり、大きさも粒状から大きな塊までとさまざま。

表面の光沢はガラス光沢だが、底面は真珠光沢があらわれている。

インドのプーナでとれた魚眼石の結晶。

ハンマーなどでたたくと不均等な断口があらわれる。

素焼きの陶板にこすりつけると白い条痕が残る。

魚眼石

APOPHYLLITE

見て楽しむ宝石

アポフィライトという鉱物名は、ギリシャ語で「葉片状に割れる」という意味で、加熱すると薄くはがれるという性質に由来している。その名の通り、細工しようとなると薄くてはがれてしまうため、指輪やブレスレットのような身につけるものには向かない。ケースに入れ、コレクション用として見て楽しむ宝石だ。

キ 魚 眼 石

◀ 束沸石と共生している魚眼石の結晶。

▼ 灰十字沸石の上に形成された立方体の魚眼石の結晶。アメリカのバージニア州リーズバーク産。

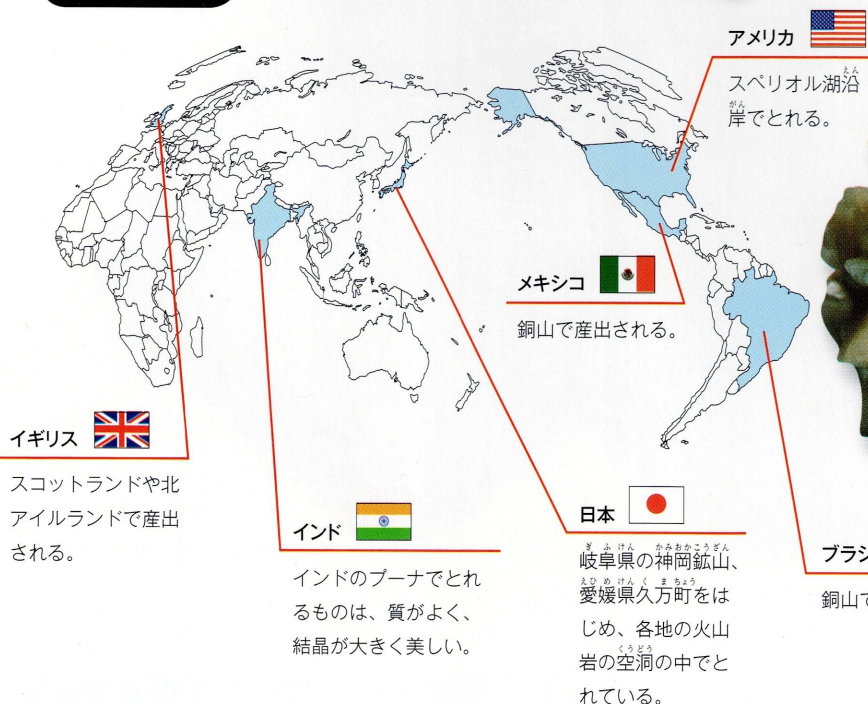


▲ 薄い緑色のぶどう石にくっついた立方体の魚眼石。

ふたつの魚眼石

魚眼石には、フッ素が多く含まれるフッ素魚眼石と水酸基が多く含まれる水酸魚眼石の2種類がある。このふたつは、外観にまったく差がないため、肉眼では区別できない。フッ素魚眼石はマグマの熱の影響を受けた石灰岩などの割れ目で、水酸魚眼石は沸石を多く含む火山岩の中で見つかることが多い。

主な産地



▲ 薄い黄色の輝沸石にくっついた緑色の魚眼石。